28

「向」

二八　★　向

地元に、とても美しいひまわり畑がある。

最盛期には何十万ものひまわりが視界を埋めつくすほどに咲き誇る。真夏の空は抜けるような青色で、ひまわりの鮮やかな黄色とのコントラストが見事だ。地上は蒸して足元は少しぬかるみ、熱せられた土の匂いが風に乗って鼻をくすぐる。

この時期になると五感で思い出す、僕にとっての夏の原風景（げんふうけい）といってもいい。

「ひまわりは、太陽のほうを向いて咲く。」

小学生の頃の集会で聞いた話だったかと思う。

朝は東に、夕方には西に。ゆっくりと首を動かしながら、その存在を追いかけていくそうだ。

曇りの日でも太陽がある方角を覚えていると聞いて、「それって本当かな？」と思った。

ともかく太陽が何よりも大切な拠（よ）りどころなのだろう。ひまわりは『いちばん大切なもの』を、そして『向くべき方向』を知っている。迷うことなく、ひたむきに咲き誇るその姿は、見る人に元気を与えてくれる。

生きていると、「それはダメだよ」「こうしなければいけない」と言われることが少なくない。

時に「ダメ」という言葉は、誰かの心の向かう先を無理に変えようとする力を持ってしまう。人にはそれぞれ、自分なりの大切な方向がある。たとえそれが他の誰かとは違っても、認められ、尊重されてほしい。

危険を避けるために必要な「ダメ」は確かにある。けれども、ただの価値観や経験の違いで向きを変えさせてしまうのは、太陽に向かうひまわりの首を別の方向にねじ曲げてしまうようなものかもしれない。

心の中に太陽があれば、きっと花が咲く。そんなことを考えながら、あのひまわり畑をまた思い出していた。